

平成 29 年 8 月 30 日



練習船青雲丸実習生の一連の事案について

1. 事案の概要

この度、海技教育機構の練習船「青雲丸」で実習中の学生（いずれも海技大学の学生）について、自殺未遂、自殺、失踪という3件の事案が発生しました。

（1）自殺未遂事案

7月13日未明、小豆島坂手港沖に停泊中の青雲丸から、実習生が海に飛び込み自殺を図った。しかし、泳いでいるうちに陸にたどり着き、その後、青雲丸からの通報を受けて捜索を行っていた海上保安庁職員が小豆島の犬角鼻付近を歩いていた実習生を発見した。

（2）自殺事案

7月21日、神戸港に停泊中の青雲丸において、実習生がこのまま実習を継続するか非常に悩んでいる様子であったことから、家族と相談することを勧め、翌日、実習生は同港で下船し、一旦、帰省させた。

24日、保護者及び本人から、青雲丸に戻り、実習を再開する旨の連絡があったが、帰船予定であった28日、実習生が名古屋市内で自殺していたことが警察からの連絡で判明した。

（3）失踪事案

7月30日、名古屋港に停泊中の青雲丸において、自由時間を利用して上陸していた実習生が、保護者や他の実習生に「船を下りて失踪する」という趣旨のメールを送った後、行方が分からなくなった。保護者から警察に行方不明者届が提出されているが、同実習生は現在も行方不明。

2. 海技教育機構における再発防止策等の実施

(1) これまでの対応

海技教育機構としては、教育の場である練習船においてこうした事案が立て続けに起こったことを重く受け止め、下記のように対応しているところです。

- 実習生全員を対象に青雲丸教官による個別面談及び抑うつ調査を実施
- 海技大学の教員を青雲丸に臨時乗船させ、しばらくの間海技大学の学生のケアを実施
- 青雲丸実習生に専門家のカウンセリングを実施
- 青雲丸船内の見回り体制の強化
- 青雲丸の指導教官から船長等が聞き取り調査を実施
- 機構本部から幹部を派遣し、青雲丸及び海王丸（注）の指導教官等からの聞き取り調査を実施

（注）本事案の実習生はいずれも7月から青雲丸に乗船する前（4月～6月）、海王丸で乗船実習を受けていた。

(2) 今後の対応予定

今後外部の専門家からなる第三者委員会を設置し、こうした事案が立て続けに起こった背景等を調査し、改善策の提言を頂き、練習船における教育改善を図ってまいります。

問い合わせ先：独立行政法人 海技教育機構 高田、星野、鹿野 TEL：045-211-7303 FAX：045-212-0006

練習船青雲丸の実習概要

1. 独立行政法人海技教育機構について

独立行政法人海技教育機構は、8校の学校における船員養成のための学科教育と、5隻の大型練習船による航海訓練を通じた一貫教育を実施するとともに、商船系大学や高等専門学校などの船員教育機関の学生・生徒（実習生）に対する航海訓練を実施し、新人船員の養成を実施。

2. 青雲丸の実習概要

各練習船は一年を通じて船員（海技士）の資格の取得のために必要な実習訓練を実施しており、一部を除き実習生は3ヶ月毎に練習船を替えて実習訓練を受けている。

青雲丸の平成29年度第2四半期の乗船実習については、7月1日より、商船系大学、商船系高等専門学校、海技大学校及び海上技術学校の実習生を乗船させ、3ヶ月にわたる実習訓練を行っている。

また、一定期間の実習訓練を修了することが、それぞれの学校の卒業及び船員（海技士）の資格取得のための要件となっている。

青雲丸の実習生数 145名 （8月30日現在）

3. 練習船青雲丸について

総トン数	5,890トン
全長	116m
出力	7,722kW